福岡観世会 第二一回

令和九年

能　鉢木（はちのき）　観世清和

狂言　昆布売（こぶうり）　野村万禄

能　善界（ぜんがい）　白頭　今村嘉太郎





と　き／令和9年 1月23日（土） 午後1時始（12時開場）

ところ／大濠公園能楽堂

入場券／指定席…9,000円（当日券…10,000円）
自由席…7,000円（当日券…8,000円）

発売所／エムアンドエム ☎092-751-8257

鉢木

仕舞
久保誠一郎　鷹尾　維教

笈之段
淡路　木月　晶子
小鍛冶（キリ）　多久島法子

地謡
井内　政徳
鷹尾　章弘
今村　嘉伸
今村　哲朗

関根　祥丸　能
観世　清和

喜多　雅人

大鼓　白坂　信行
小鼓　幸　正佳

笛　森田　光次

福王茂十郎
矢野　昌平
佐々木　秀

間　野村　万禄
吉住　講

後見　坂口　貴信
坂口　信男

地謡
井内　政徳
久田勘吉郎　鷹尾　維教
山口剛一郎　観世三郎太
久保誠一郎　角　幸二郎

〈休憩　十五分〉

昆布売

狂言
シテ　野村　万禄　アド　杉山　俊広
後見　雪野　洸太

仕舞
兼平　大西　礼久
半部　坂口　信男
玉之段　観世三郎太

地謡
井上裕之真
今村　嘉伸
多久島利之
角　幸二郎

〈休憩　十分〉

善界

能
今村　哲朗
今村嘉太郎

喜多　雅人

白頭　福王　知登
矢野　昌平

大鼓　白坂　保行
小鼓　飯冨　章宏

太鼓　吉谷　潔
笛　相原　一彦

間　吉良　博靖

後見　坂口　貴信
大西　礼久

地謡
小倉要二郎
井上裕之真
関根　祥丸
山口剛一郎

久保誠一郎
鷹尾　章弘
森本　哲郎
今村　一夫

附祝言

終演予定　午後五時二十分頃

◆鉢木（はちのき）

信濃から鎌倉へ上ろうとする一人の旅僧が、途中上野国佐野のあたりで雪に降り込められてしまいます。とある一軒家に宿を借りようとすると、その家の妻は、主人が留守だから、待つように言います。やがて雪の中を帰ってきた主人は、夫婦二人すら暮らしかねている有様の見苦しい家ですからと断り、十八町さきの宿場を教えます。しかし、大雪の中を立ち去る旅僧の後姿を見て、気の毒に思い、追って呼び戻します。そして貧しい粟飯を出してもてなし、秘蔵の鉢木を火にくべて暖をとらせます。僧は、その人となりに感じ、名を尋ねると、佐野源左衛門常世のなれの果てですと名乗り、領地を一族の者に横領され零落しているが、今でも鎌倉に一大事が起これば、一番に馳せ参ずる覚悟だと、その意気を洩らします。翌朝、旅僧は「鎌倉へ来られることがあったら訪ねてください。幕府へもお手引きしましょう」と慰めて、立ち去ってゆきます。

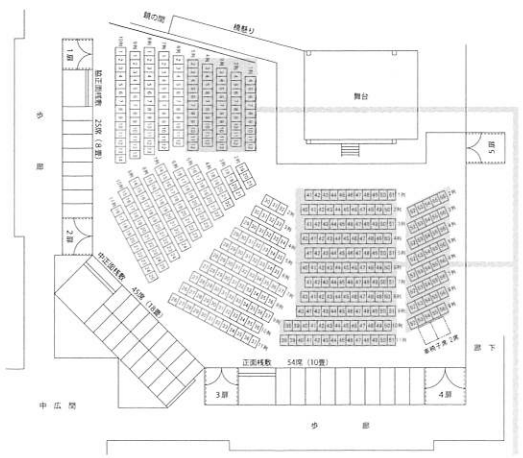
それから間もなく、鎌倉で兵を集めるというので、常世も痩馬に打ち乗って駆けつけます。北条時頼は、二階堂と太刀持ちに命じて集まった軍勢の中から常世を探させます。御前に召された常世に、時頼は、過日の旅僧は自分であったと明かし彼の忠誠を賞して、旧領を返させた上、梅松桜に縁のある三ヶ荘を与えます。常世は喜び、意気揚々と故郷へ帰っていきます。

◆昆布売（こぶうり）

京都　御手洗祭に　一人で出かけたある大名。道中　自身持っている太刀を　誰かに持たせようと待機。
そこへ通りかかった若狭の小浜の昆布売大名から声を掛けられ　無理やり　太刀を持たせられる。
やがて自分の家来　太郎冠者の様に扱われる昆布売。
我慢の限界に達した昆布売は反撃に転じ大名に無理難題を押し付けるが・・・下剋上が大いに笑いを誘います。
「若狭の小浜の召しの昆布」は、北海道で採れる昆布が都まで上がるのに、いったん若狭湾に水揚げされ、高貴な所へも献上される事から「召し」と言われた。

◆善界（ぜがい）　白頭

唐の天狗・善界坊は日本で勢力を広げるため愛宕山の太郎坊を訪ね、その助言で比叡山攻略を目論みます。途中で立ちはだかる高慢な善界坊と、都へ向かう飯室の僧正との間で繰り広げられる緊迫した攻防は本作最大の見どころです。
なお「白頭」という特殊演出（小書）が付くことで緩急が多く激しく、動きの多いものになり、装束が白色中心となります。



指定席（その他は桟敷席を含めて自由席となります。）

主催／福岡観世会